

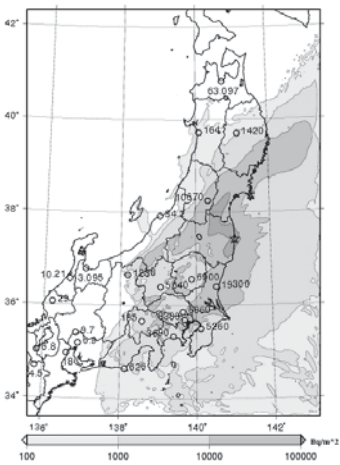
## 空間線量計では汚染濃度は測れない

環境省は大臣と共に広域処理の説明のため、各地で空間放射線量を測るパフォーマンスをして安全性をアピールしています。しかし、空間線量計は、空間を飛び交う放射線の量を測定するもので、汚染濃度を計測するものではありません。アルファ線及びベータ線は、材木等、瓦礫を構成する物質に遮蔽され捕捉できません。またサンプリング調査では、人体にとって脅威となる福島由来の放射性核種のうち、セシウムだけしか検査していないのです。



## 瓦礫搬出地域も汚染されている

今回、広域処理として瓦礫の搬出が予定されている岩手・宮城は、環境省の「安全です」「汚染されていません」の言葉に反して、稲わらによる牛肉汚染問題が起きています。左図の拡散シュミレーションをご覧ください。広域処理対象地域である沿岸部も含めて汚染されています。稲わら同様瓦礫も汚染されています。



宮城県産  
稲わらから  
1万5800 ~  
1万8100Bq

## 原理・原則を曲げてはいけない!!

放射能や有害化学物質の取り扱い大原則は、

1. 排出抑制
2. 環境へ拡散しない



「ダイオキシン類対策特別措置法」(1999年制定)  
「放射線障害防止法」(2000年制定)

今回の事故後、今まで健康のために定められてきた原理・原則がいつも簡単に変更されました。そして、広域処理は輸送のためのエネルギーコストをかけ、CO2を増大します。

環境省がこの原則を曲げるのは自滅行為です。

## 遮水シートより長生きな放射性物質

環境省が唯一測っている核種セシウム、その半減期は30年です。最終処分場で、汚染物質の漏洩を防ぐ役割の遮水シートの耐用年数は大体30年。しかし、遮水シートが寿命を迎えても、セシウムは半減しかしていません。環境に影響を及ぼさなくなるまで無害化するのには数百年かかるとも言われているのです。

### 30年後…



## なんで? どうして? 広域処理

### 参照元 一覧

#### 「瓦礫は阪神大震災の時の1.02倍」について

- ・阪神時データ → <http://bit.ly/HsqHmn> (PDF)
- ・東日本時データ → <http://bit.ly/HEkfKT> (PDF)
- ・仮設27基 + α (周辺事業者炉など) の情報 → 独自電話調べ

(詳細は連絡先へメールください。内容返信します。)

#### 「広域処理瓦礫は複合汚染されている」について

- ・複合汚染内容 → <http://bit.ly/HBOCIR>

#### 「広域処理は被災地のお金を奪う」について

- ・公開資料一覧 → <http://bit.ly/HD28DI>

#### 「広域処理は瓦礫総量のたった20%」について

- ・札幌市長の見解 → <http://bit.ly/GT1mmV>
- ・南相馬市長の意見 → <http://bit.ly/Invf1Y> (動画)

#### 「原子力施設内は100Bq/kg、

#### 外に出ると8000Bq/kg」について

- ・原子炉等規制法におけるクリアランス制度について → <http://bit.ly/HBaksA> (PDF)

#### 「焼却炉のフィルターは万全ではない」について

- ・月刊廃棄物 2011 october P57 → <http://bit.ly/HYCr2> (PDF)

#### 静岡放射能汚染測定室

→ <http://bit.ly/wdU7XE>

#### 「空間線量計では汚染濃度は測れない」について

- ・放射能測定法シリーズ → <http://bit.ly/jUDyE0>

#### 「原理・原則を曲げてはいけない!!」について

- ・放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律 → <http://bit.ly/HHmeN9>

#### 「瓦礫搬出地域は汚染されている」

- ・福島第一原子力発電所事故に伴うCs137の大气降下状況の試算 → <http://bit.ly/HEG9Rg>

#### 「遮水シートより長生きな放射性物質」

- ・耐用年数は各製品によって違います。平均年数です。